

## 旧中国農村・家族再考

—青浦県徐涇郷旧康家橋の事例—

木下英司

中国農村が近年急速に変化していることは誰の目にも明らかである。こうした変化を具体的に言えば、人民公社の解体、戸別経営制への移行、それに伴う土地の分配と長期保有の保証、そして農民の個人経営の奨励といったことが挙げられる。

しかし、こうした事態は、もはや我々がかつて持っていた社会主義中国の農村といったイメージでは、現在の中国農村を捉えることができないということを証明するものである。従って中国農村の現状を把握するためには、我々のもっていた既成のイメージを打破するだけではなく、新しい視座の構築が必要となるであろう。

こうした状況に対し、私は解放前の中国農村の状況をみてゆくことで些かなりとも突破口が開けるのではないかと思う。それは即ち中国農村の現状を理解するために、農業集団化、土地改革以前にまで遡ることで、中国農村の現状を中国農村の長期にわたる変動過程の中に位置づけてみるということであるが、それはとりも直さず、かつて中国農村をみる際に強調されてきた「変革」という側面よりも、むしろ「連続性」に注目して中国農村の変化をみてゆこうとするものである。

本報告においては以上のような視点を踏まえた上で青浦県徐涇郷の一農村に分析のメスを入れてみることにしたい。勿論、解放前か

ら現在に至るまでのすべての変化を述べることは到底不可能であるから、本報告では村の古老の聞き取りに基づいて、一九四〇～一九四九年までの農村や家族の状況を復元してみようと思う。尚、今回の報告で私が注意したのは、解放前の中国の農村、家族と農業がどういう状況にあり、又どういう特徴を有しているのかということである。最後に今回の報告は大まかに以下のような項目に従って行なおうと考えている。参考下さるようお願いいたします。

- 1、地理的・歴史的概況
- 2、村落の発生
- 3、農業生産、経営の状況
- 4、村落の階層、協働等関係
- 5、家族（構成、成員等）及び住居状況
- 6、家族内の勢力構造
- 7、近隣関係、年中行事および通過儀礼について